

## 令和4年度 ひばり認定こども園自己評価結果

### 1. 教育・保育の目標

園児一人一人に応じた教育・保育を一体的に行い、心身ともに健康で明るく、たくましい子を育てる。

■ 目指す子どもの姿

- げんきにあそぶ子
- あいさつのできる子
- おもいやりのある子
- じぶんのことはじぶんでできる子

### 2. 重点的に取り組む目標・計画

- コロナ禍に於いて、園行事の変更や家庭での保育をお願いするなどの感染予防対策が必要となることも予想される。乳幼児期の遊びの連続性による学びの重要性から、園行事の在り方の見直しや園での遊びの家庭への発信の仕方を工夫し、教育課程に沿った学びを保障する。
- なかのご認定こども園との統合により、園児数の増加や教育環境の変化等からより一層の園児理解が必要となる。全職員が教育・保育目標の意味を捉え、園児一人一人に寄り添い、教育の場における安全管理や発達に応じた教材の選定・提供をしていく。
- 園児の健やかな成長には園と家庭との保育・教育目標の共通理解や、協力関係が必要となる。園内行事や情報の発信等、工夫していく。また、多様化する保育ニーズを捉えながら、園児一人一人の成長の喜びを家庭と共有していく。

### 3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	取組状況
教育・保育目標の周知と共通理解	C	園内研修や全体的な計画、グランドデザイン等で教育・保育目標の理解に努めている。HPや保育参観等で繰り返し伝えているところであるが、今後も努力が必要である。
園児理解に基づく評価	B	園内研修等でクラス毎に園児の姿を教育課程と照らし合わせて評価した。また職員間でも共有ができた。
家庭教育促進のための取り組み	B	HP、園・クラス便り、掲示物、連絡帳、送迎時…等、クラスに応じた方法で情報を発信した。
コロナ禍に於ける園行事と関連したカリキュラム・マネジメント	B	園内や町内の教育機関、保育施設等のコロナ感染の状況に応じて園行事の内容を検討し、教育課程や年間計画を大きく変更することなく実施することができた。
保育ニーズの把握と個々に応じた子育て支援	A	保護者の多様なニーズを把握することができた。ニーズによっては対応が難しいものもあったが、園運営や教育・保育目標の観点を踏まえて支援に努めた。

※評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

4. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取組方法
家庭・地域とつながる保育	家庭や地域と共に乳幼児期の育ちを支え合う関係性や連係を向上させる。 (乳幼児理解、情報発信、園内外の職員研修、職員間での園児の育ちや保育活動についての対話、保護者同士のつながりができる工夫、家庭や地域の保育参加…等に努める。)
子どもの育ちを支える安全管理・安全教育	『学校安全資料「生きる力」をはぐくむ学校での安全教育(文部科学省)』等の資料を参考にし、安全管理・安全教育について園内研修や職員会議等で職員が積極的に学んだり、体制の見直しを行ったりする。

令和5年1月6日

評価者

那珂川町立ひばり認定こども園

園長 高橋 和子